

矢掛町人口ビジョン 案



平成27年10月

矢 掛 町

目次

I	はじめに	1
II	矢掛町の人口の現状と分析	2
1	人口動向分析	2
(1)	総人口の推移と将来推計	2
(2)	年齢3区分別人口の推移と将来推計	2
(3)	出生数及び死亡数の推移	3
(4)	転入数及び転出数の推移	4
(5)	総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響	6
(6)	年齢階級別の人口移動の状況	6
(7)	合計特殊出生率の推移	8
(8)	未婚率の推移と結婚に対する意識	8
2	将来人口の推計と分析	10
(1)	仮定値による人口推計シミュレーション	10
3	産業と人口の状況	12
(1)	男女別産業人口と特化係数	12
(2)	年齢階級別の産業人口	13
III	人口の将来展望	14
1	将来展望の基礎となる住民の意識	14
(1)	若者の進路等に関する意識	14
(2)	移住・定住に関する意識	15
(3)	子育てに関する意識	17
2	将来目指すべき方向	19
3	人口の将来展望	20

I はじめに

本町は、岡山県の南西部に位置し、瀬戸内海気候に属した温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれています。また、江戸時代には参勤交代の宿場町として栄え、本陣・脇本陣が現存する文化と田園のまちです。

このような恵まれた環境を持つ本町ですが、その人口は確実に減少し続けています。昨年末、政府は「我が国の急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくこと」が喫緊の課題であるとし、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）を制定しました。この法の目的は、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること、地域社会を担う個性豊かで多様な人材について、確保を図ること及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することの一体的な推進です。

まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、本町では「矢掛町人口ビジョン」及び「矢掛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。策定にあたっては、政府が平成27年12月に閣議決定した人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向性を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しています。また、昨年6月に、本町の幹部職員で構成する「人口増対策会議」を設置し、人口減少、少子化、雇用問題などに対する政策を検討するとともに、本年7月には、産業・行政・大学・金融・労働・メディア等の各分野の有識者で構成する「矢掛町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を設置し、ご意見をいただきながら、策定を進めてまいりました。

この「矢掛町人口ビジョン」は、人口の現状を分析するとともに、今後目指すべき方向性を示します。また、本町がどのような施策を実施する必要があるのかを導き出す基礎となるものです。国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、まず国民に対して、人口の現状と将来の姿について、正確な情報を提供し、認識の共有を目指していくことが出発点とされています。本町においても、人口の現状と将来の姿について、「矢掛町人口ビジョン」により、町民の皆様にお示し、認識の共有を図りたいと考えております。

Ⅱ 矢掛町の人口の現状と分析

1. 人口動向分析

(1) 総人口の推移と将来推計

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」（以下、「地域別将来推計人口」という。）によると、本町の人口は、1980年には18,400人であったが、人口は毎年減少し続けており、2040年には10,645人まで減少するとされている。これは60年間で40パーセント以上の減少が予測されていることになる。

日本の総人口は、合計特殊出生率が人口置換水準の2.07を長い間下回りながらも、増加を続けてきたが、2008年を境にして減少を始めた。また岡山県の人口も2005年の約196万人をピークにして、減少に転じている。このように日本総人口及び岡山県総人口と比較したとき、本町は早い時期から人口減少問題が深刻化していたことがわかる。

また人口減少スピードは日本全体で今後加速度的に高まるとされている。本町では地域別将来推計人口において、2010～2040年の間に、人口は▲31.7%と見込まれている。国の長期ビジョンでは、人口5万人以下の地方都市が▲28%、過疎地域の市町村が▲40%と見込まれており、本町もそのとおりの減少が予想されているといえる。

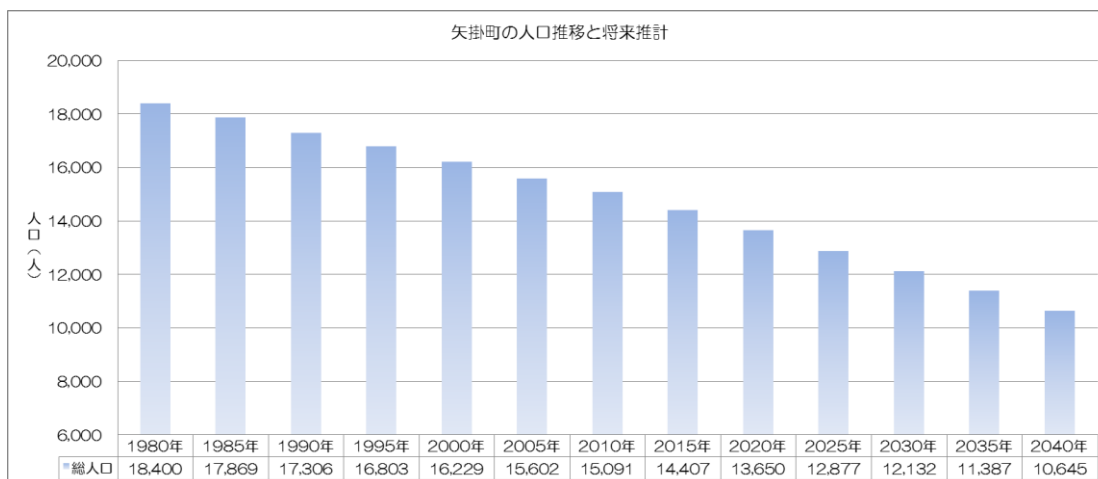


図1：【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※図1の2015年の人口は過去の国勢調査を基にした国立社会保障・人口問題研究所の推計値。2015年8月1日現在の岡山県毎月流動人口調査による本町の人口は14,308人であった。

(2) 年齢3区分別人口の推移と将来推計

現在まで、年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）の割合は減少、老年人口（65歳以上）の割合は、増加している。総人口は減少し続ける中で、2020年頃までは老年人口は増加するが、それ以降、老年人口も減少に転換する。1985年頃に老年人口と年少人口が同じになり、その後、逆転したことがわかる。

国の長期ビジョンでは、人口減少の進み方を三段階に分けており、「第一段階」とは、若年人口は減少するが、老年人口は増加する時期、「第二段階」は、若年人口の減少が加速化し、老年人口が維持から微減へと転じる時期、「第三段階」は、若年人口の減少が一層加速

化し、老年人口も減少していく時期である。本町の場合、老年人口が維持から減少へ転じる時期が近づいており、現在は「第二段階」と考えられる。国の長期ビジョンによると、「第一段階」では人口減少スピードはそれほど速くないが、「第二・第三段階」では、「人口急減」が待ち受けているとされている。本町では、今後、急速な人口の減少が懸念される。

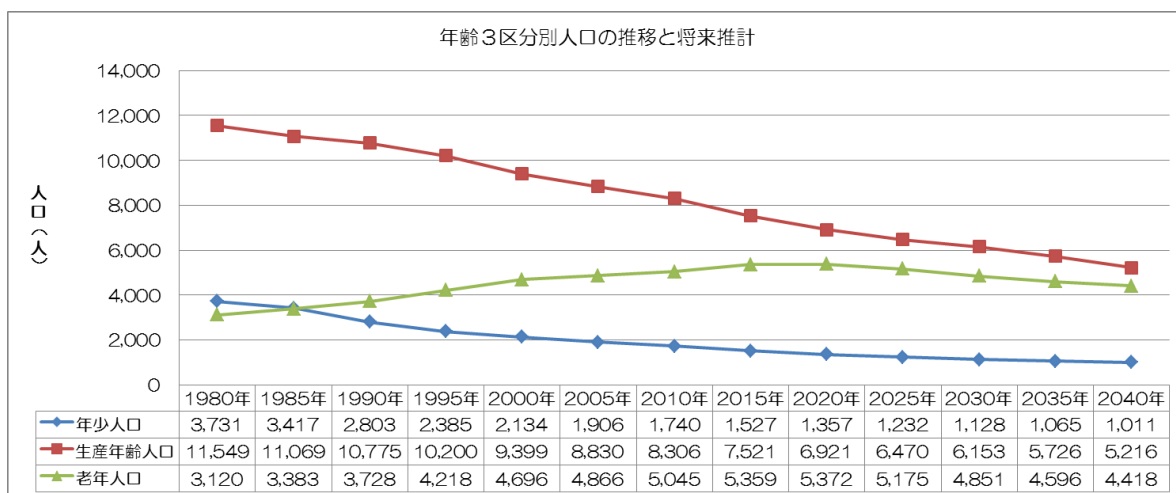


図2：【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(3) 出生数及び死亡数の推移

死亡数は年により変動が大きいですが、全体的には出生数は減少、死亡数は増加しており、人口は「自然減」の状態である。出生数と死亡数の差は年々拡大している。1995年には132人の出生があったが、2013年ではわずか74人となっている。また、2013年の死亡数と出生数の差は152人であり、「自然減」だけでも大きく人口が減少していることがわかる。

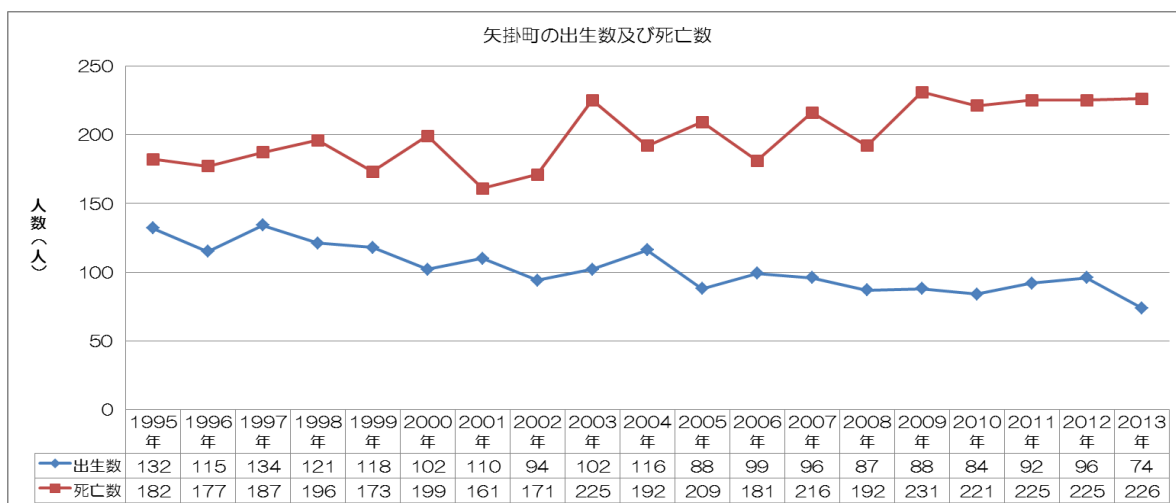


図3：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(4) 転入数及び転出数の推移

年によって多少の変動があるものの、全体的には転出数が転入数をやや上回り、社会減の状態となっている。転入数及び転出数はどちらも緩やかに減少している。

転出数の内訳については、岡山県倉敷市、岡山県岡山市北区などの県内近隣都市への転出が目立つ。県外では近隣の広島県福山市への転出が多い。

一方で転入数の内訳については、岡山県井原市、岡山県総社市などの県内近隣都市からの転入が多い。

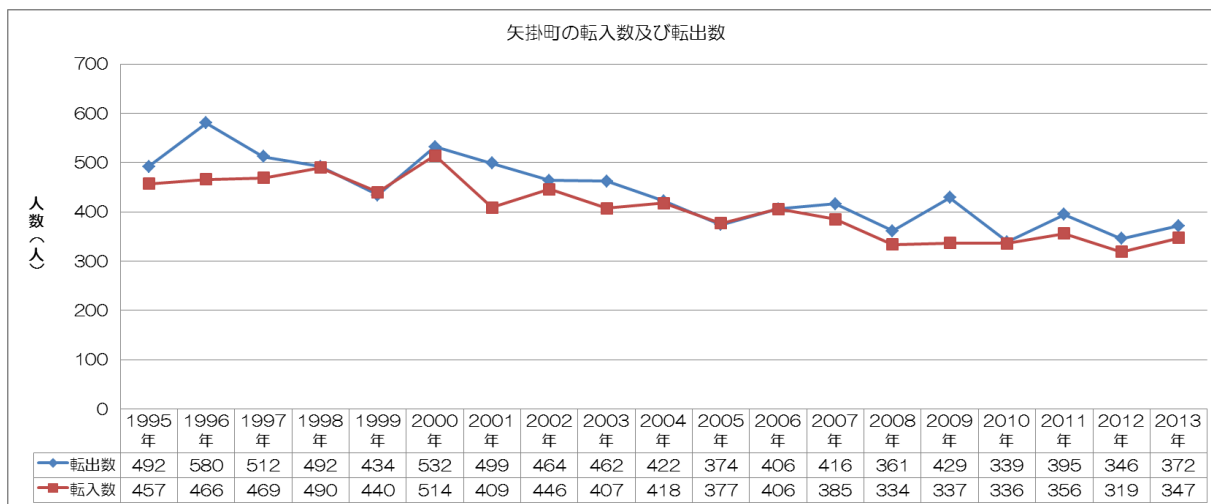


図4：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

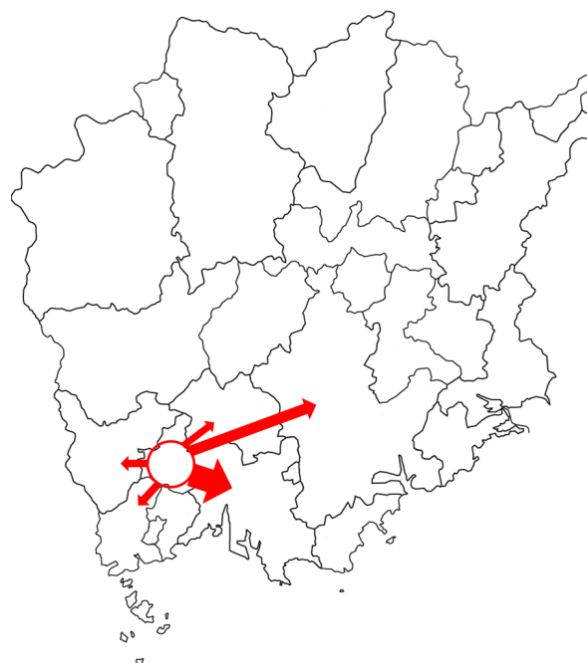
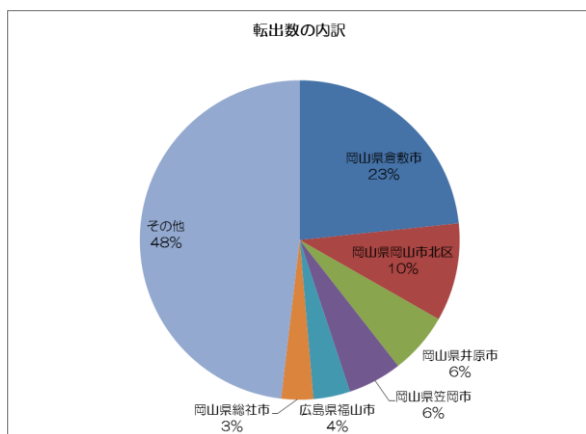


図5：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2014年

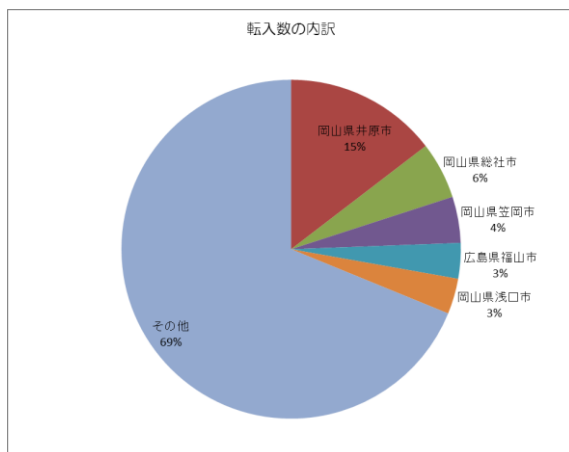


図6：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2014年

転入数の内訳のうち、特に県外からについて着目すると、隣県では広島県、関西圏では大阪府、関東圏では東京都から本町への転入が多く、いずれも大都市が上位を占めることがわかる。

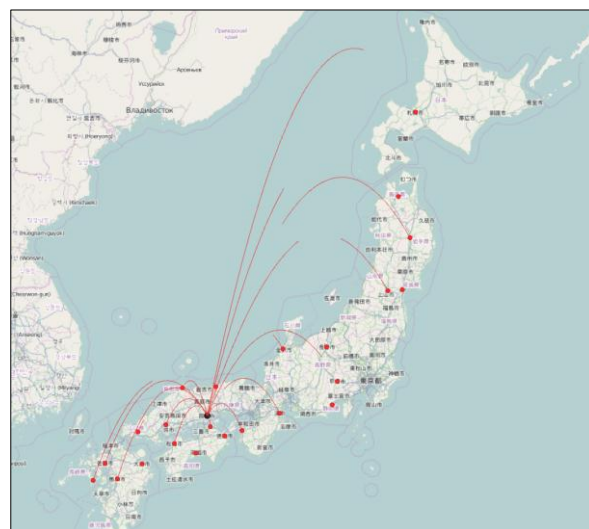
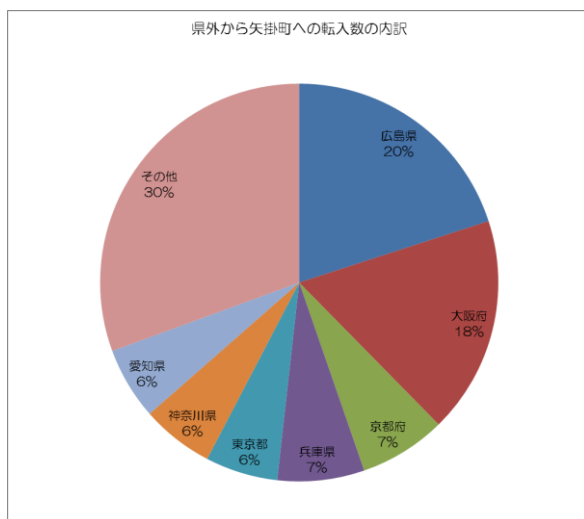


図7（左）：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2014年

図8（右）：「県外から岡山県への転入者住所地の花火図」【出典】地域経済分析システム

※2014年

(5) 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

グラフの縦軸に自然増減、横軸に社会増減をとり、本町の総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響を分析する。

1999年、2005年はわずかに社会増があるものの、全体的には自然減、社会減の状態となっている。近年では、社会減よりも自然減が総人口に影響を与えていることがわかる。

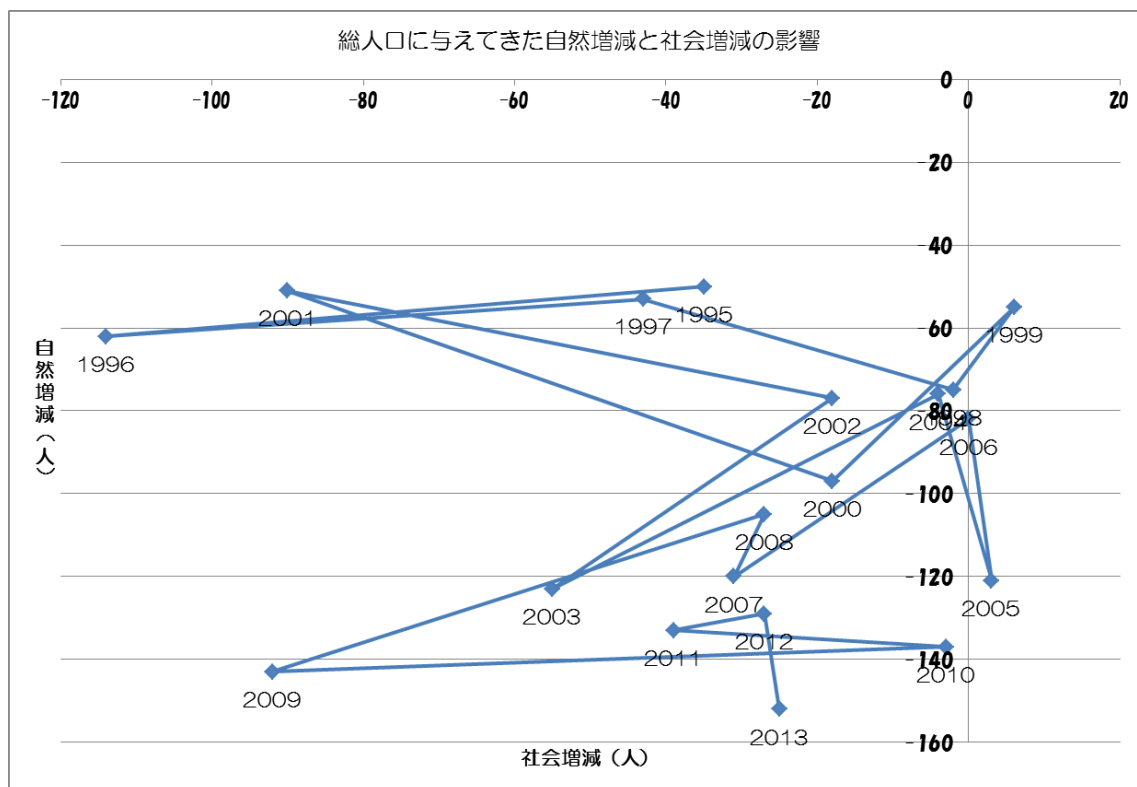


図9：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(6) 年齢階級別人口移動の推移

年齢階級別に人口移動の推移を見てみると、15～19歳から20～24歳のときに大きく転出超過になる傾向がわかる。これは進学、就職に伴う転出が多いためである。しかしながら、20～24歳から25～29歳のときには転入超過となっており、これは進学して町外へ転出した者が就職に伴って町内に戻ってくるためと考えられるが、この傾向は近年縮小しているようである。このことは国の長期ビジョンにおいて、指摘されており、かつては東京圏の大学に進学しても、就職時に地元に戻る動きが一定程度あったが、そうしたUターンが減少している。

男性と女性とを比較した場合、女性の方が移動数は少ないが、全体的には男女とも同じ傾向が見られる。また、近年では55～59歳から60～64歳の年齢層にわずかではあるが、転入超過の傾向が見られる。

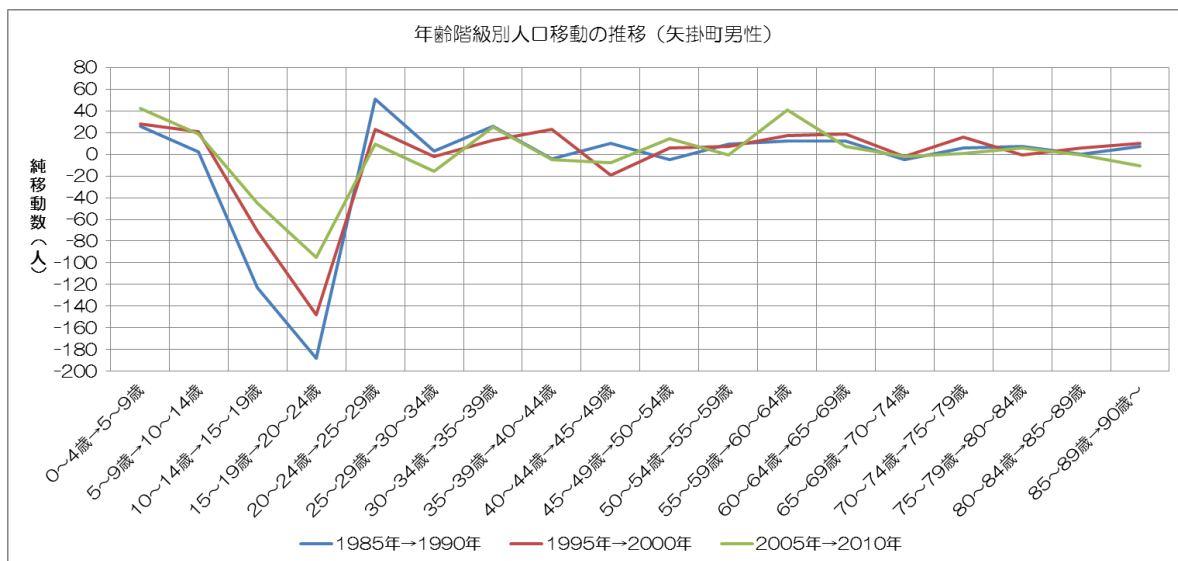


図10：【出典】総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」



図11：【出典】総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(7) 合計特殊出生率の推移

本町の合計特殊出生率は年によって変動は大きいものの、全体的には全国、岡山県を下回って推移している。特に2011年～2013年は急激に減少傾向にあることがわかる。
 ※合計特殊出生率とは、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、一人の女性が一生の間に何人の子どもを産むかを表す数値である。

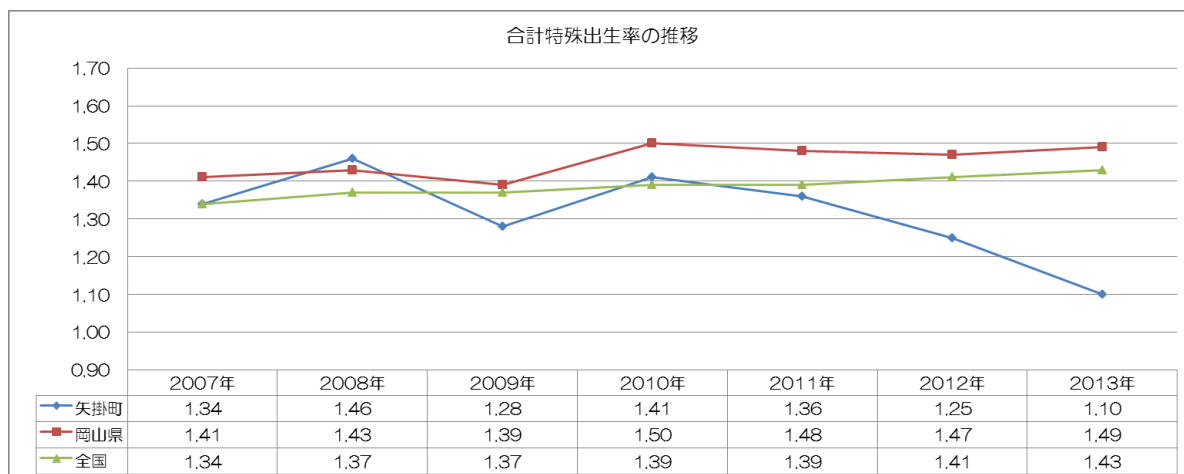


図12：【出典】(公財) 国土地理協会「住民基本台帳人口要覧」

(8) 未婚率の推移と結婚に対する意識

本町の未婚率は岡山県全体の未婚率と比較すると、男性、女性とも低い値で推移している。特に女性は平成22年において、岡山県と比べて4.1%も低い値となっている。しかしながら、男性の未婚率は矢掛町、岡山県とも上昇を続けていることがわかる。
 ※未婚率とは、15歳以上人口に占める未婚者数の割合である。

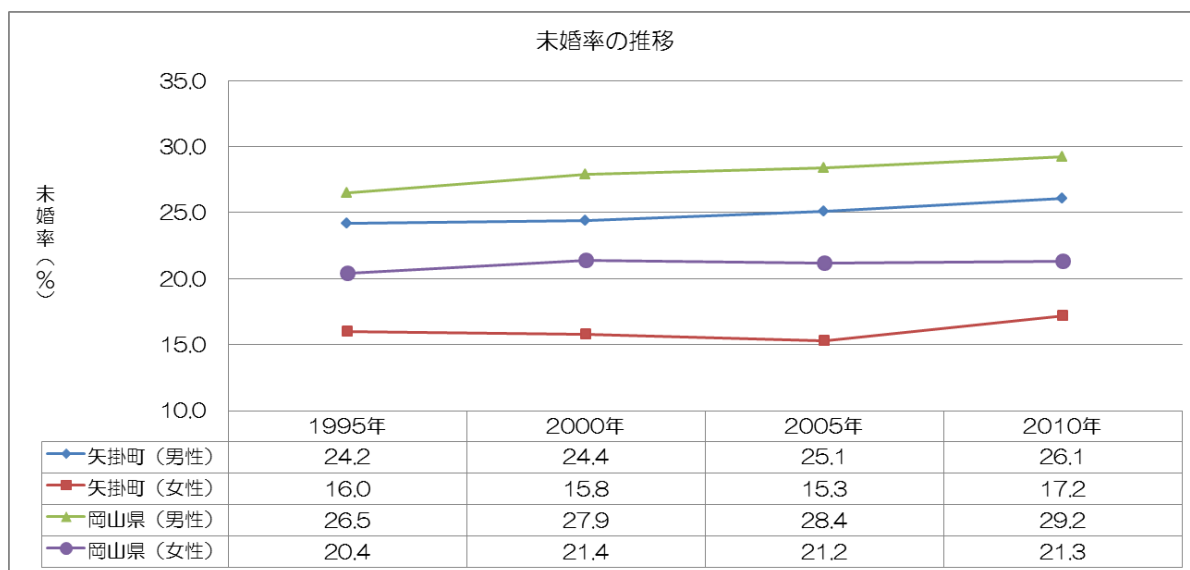


図13：【出典】総務省「国勢調査」

上図のとおり未婚率が上昇する理由について、国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査（2010年）」によると、若い年齢層（18～24歳）では「まだ若すぎる」「必要性を感じない」「仕事にうちこみたい」など、結婚するための積極的な動機がないことが多く挙げられている。一方、25～34歳の年齢層になると、「適当な相手にめぐり合わない」など結婚の条件が整わないことが多く挙げられる。ただし、この25～34歳の年齢層でも「必要性を感じない」「自由さや気楽さを失いたくない」という理由も多くなっている。

【出典】国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」※2010年

2. 将来人口の推計と分析

(1) 仮定値による人口推計シミュレーション

本町の将来人口について、仮定値を用いて試算する。地域別将来推計人口を基にして、シミュレーションAでは合計特殊出生率が今後1.10で推移すると仮定している。この合計特殊出生率1.10は、近年で最も低い値となった2013年の本町の合計特殊出生率である。また、この時の人口移動は、地域別将来推計人口と同様に一定程度に収束すると仮定している。シミュレーションBでは合計特殊出生率が徐々に上昇し、2060年に2.07に到達すると仮定している。この時の人口移動は一定程度に収束すると仮定している。この仮定により試算すると、シミュレーションAでは、2060年に人口が7,433人まで減少する。合計特殊出生率が低い値で推移した場合、本町においても大きく人口が減少すると見込まれる。合計特殊出生率が徐々に上昇していくと仮定したシミュレーションBでは2060年に9,061人の人口が確保される。それぞれの数値の詳細は図14、15、16のとおりである。

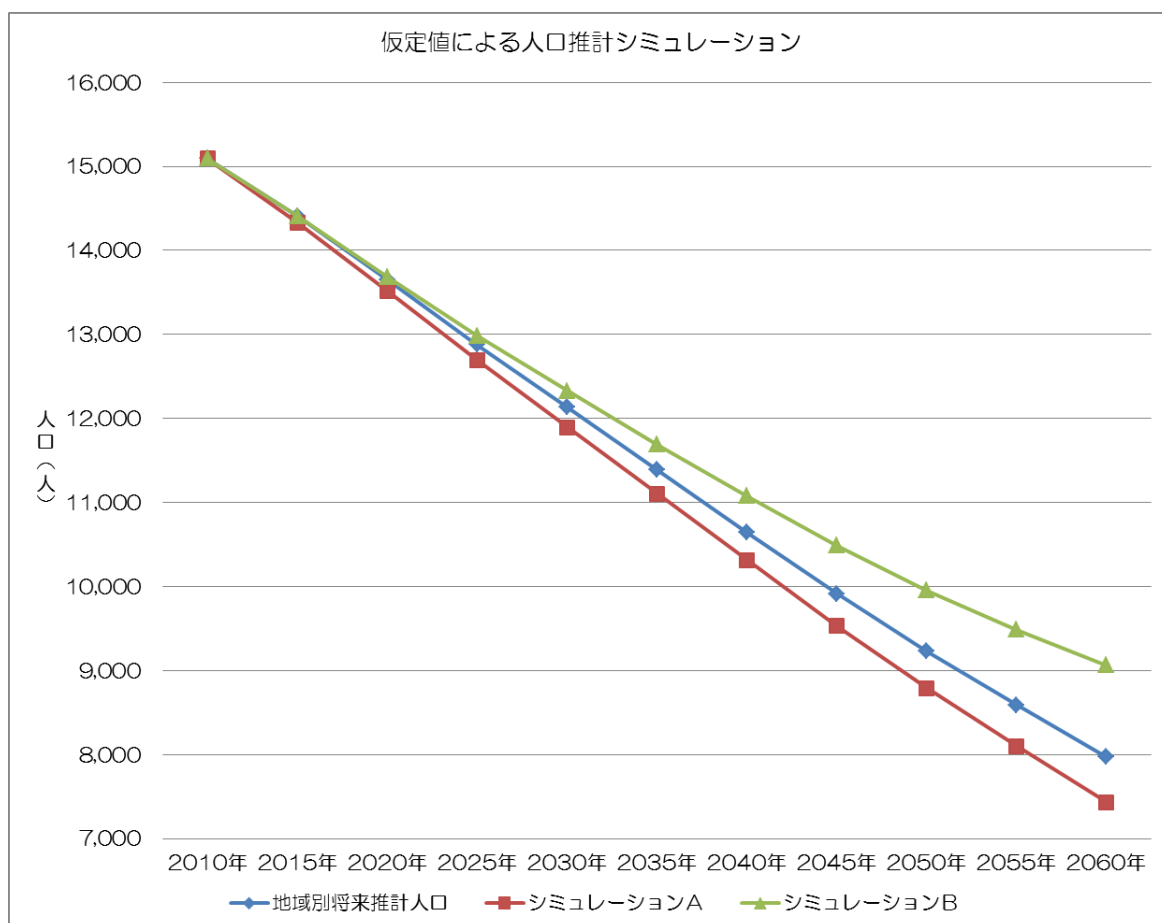


図14：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

■地域別将来推計人口

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	15,091	14,406	13,651	12,876	12,130	11,385	10,644	9,915	9,227	8,588	7,969
年少人口	1,740	1,527	1,357	1,231	1,127	1,064	1,010	936	845	753	676
生産年齢人口	8,306	7,520	6,920	6,471	6,151	5,725	5,215	4,816	4,514	4,229	3,902
老年人口	5,045	5,359	5,373	5,175	4,852	4,595	4,419	4,163	3,867	3,605	3,391
	2010年	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年
合計特殊出生率	1.41	1.32	1.29	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27
出生数		447	388	358	346	328	306	274	240	217	199
死亡数		-1,121	-1,156	-1,162	-1,122	-1,114	-1,105	-1,054	-974	-899	-862
移動数		-11	13	29	30	41	58	51	46	43	44
合計		-685	-755	-775	-746	-745	-741	-729	-688	-639	-619

図15：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

■シミュレーションA

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	15,091	14,332	13,516	12,693	11,896	11,105	10,311	9,531	8,791	8,102	7,433
年少人口	1,740	1,453	1,223	1,047	967	909	847	771	681	590	512
生産年齢人口	8,306	7,520	6,920	6,471	6,077	5,601	5,045	4,597	4,243	3,907	3,530
老年人口	5,045	5,359	5,373	5,175	4,852	4,595	4,419	4,163	3,867	3,605	3,391
	2010年	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年
合計特殊出生率	1.41	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10
出生数		373	331	311	295	275	252	220	187	164	145
死亡数		-1,121	-1,155	-1,162	-1,122	-1,113	-1,105	-1,054	-973	-898	-861
移動数		-11	8	28	30	47	59	54	46	45	47
合計		-759	-816	-823	-797	-791	-794	-780	-740	-689	-669

図16：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

■シミュレーションB

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	15,091	14,406	13,687	12,982	12,325	11,690	11,075	10,486	9,951	9,484	9,061
年少人口	1,740	1,527	1,394	1,336	1,322	1,333	1,341	1,324	1,284	1,242	1,223
生産年齢人口	8,306	7,520	6,920	6,471	6,151	5,762	5,315	4,999	4,800	4,637	4,447
老年人口	5,045	5,359	5,373	5,175	4,852	4,595	4,419	4,163	3,867	3,605	3,391
	2010年	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年
合計特殊出生率	1.41	1.32	1.41	1.50	1.59	1.67	1.75	1.83	1.91	1.99	2.07
出生数		448	424	425	434	436	433	417	397	393	399
死亡数		-1,121	-1,156	-1,162	-1,122	-1,114	-1,105	-1,054	-974	-900	-863
移動数		-12	13	32	31	43	57	48	42	40	41
合計		-685	-719	-705	-657	-635	-615	-589	-535	-467	-423

図17：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

3. 産業と人口の状況

(1) 男女別産業人口と特化係数

本町の産業人口を男女別に見ると、男性では「製造業」への就業が最も多く、次いで「建設業」「卸売業、小売業」となっている。女性では男性と同様に「製造業」への就業が最も多いが、男性に比べて、「医療、福祉」に就業している人数が多い。

また特化係数を見ると、男女とも「鉱業、採石業、砂利採取業」が高くなっており、全国と比べると就業者の割合が多い産業と言える。「農業、林業」「複合サービス事業」についても特化係数が高くなっており、本町の特徴的な産業と言える。その他、「建設業」「製造業」、男性の「運輸業、郵便業」、女性の「教育、学習支援業」「医療、福祉」なども特化係数が1を超える産業となっている。

※特化係数は、地域のある産業が、全国と比してどれだけ特化しているかを示す指標である。1以上であれば、全国と比してその産業に特化していることになる。 $\text{X産業の特化係数} = \text{本町X産業就業者比率} / \text{全国X産業就業者比率}$

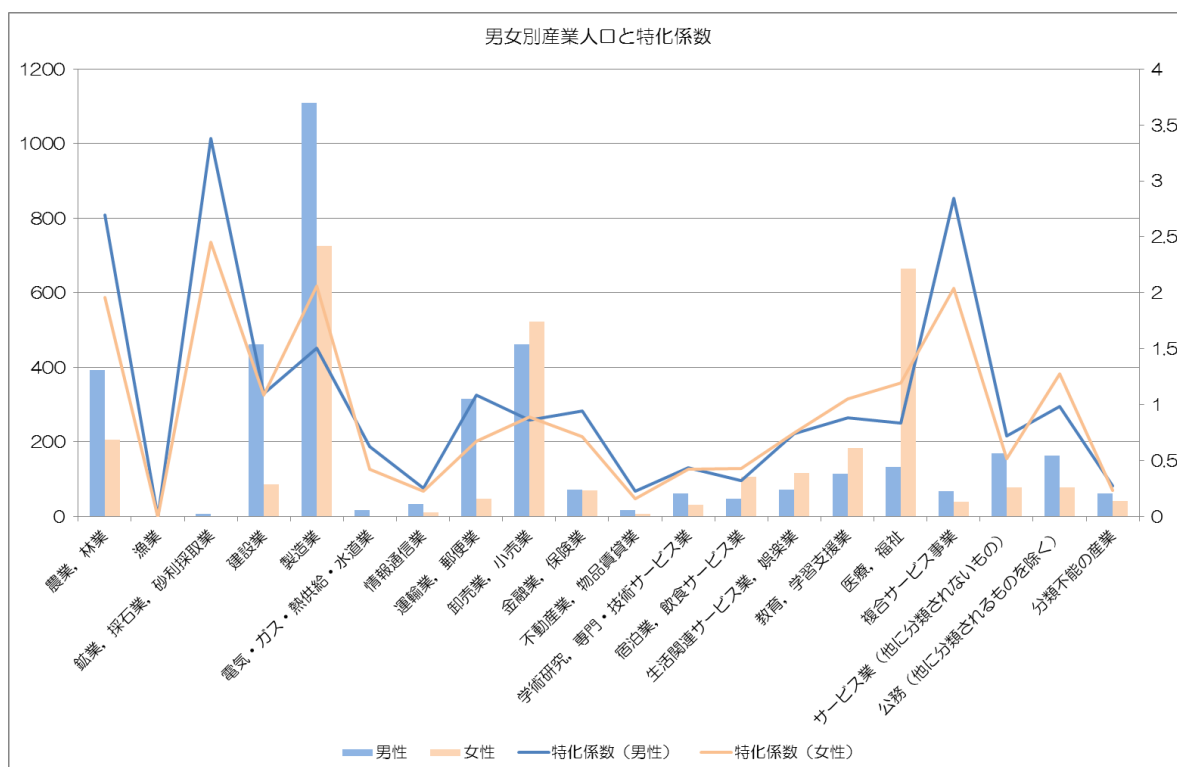
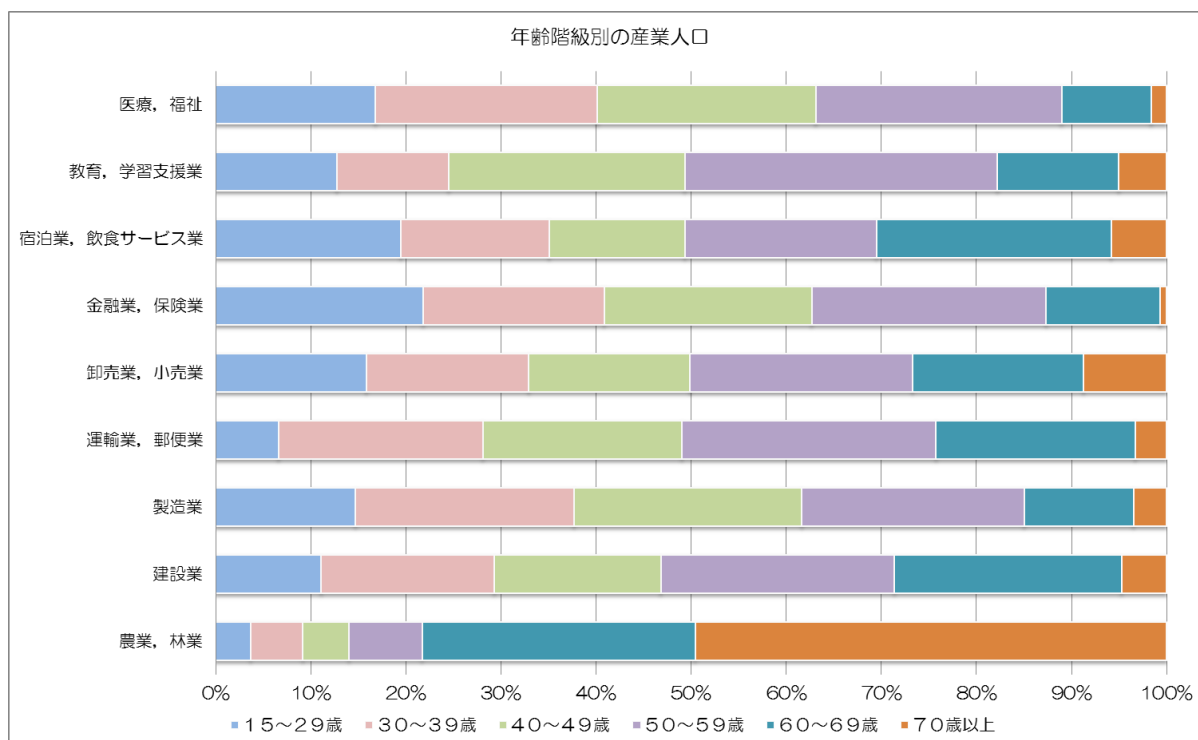


図18: 【出典】総務省「国勢調査」※2010年

(2) 年齢階級別の産業人口

本町の年齢階級別の産業人口を見ると、「農業、林業」については60歳以上の人口が全体の78%以上を占めており、他の産業に比べて、極端に高齢化が進んでいることがわかる。

また「医療、福祉」、「金融業、保険業」「製造業」は比較的バランスが良い年齢構成となっているが、「建設業」「運輸業、郵便業」など多くの産業で50歳以上の人口が50%以上を占めており、全体的には本町の高齢化の現状がうかがえる。



(単位：人)

	農業、林業	建設業	製造業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	宿泊業、飲食サービス業	教育、学習支援業	医療、福祉
15~29歳	22	61	270	24	156	31	30	38	134
30~39歳	33	100	422	78	168	27	24	35	186
40~49歳	29	96	440	76	167	31	22	74	183
50~59歳	46	135	429	97	230	35	31	98	206
60~69歳	172	131	211	76	177	17	38	38	75
70歳以上	297	26	64	12	86	1	9	15	13
合計	599	549	1836	363	984	142	154	298	797

図19：【出典】総務省「国勢調査」※2010年

Ⅲ 人口の将来展望

1. 将来展望の基礎となる住民の意識

(1) 若者の進路等に関する意識

矢掛中学校、小北中学校、矢掛高等学校の生徒に対して実施した「まちづくりアンケート」によると、「将来働きたい場所」について、「矢掛町内」と答えた割合はわずか5.9%にとどまり、「矢掛町から離れて」と答えた割合は、県内と県外を合計して65.5%となった。また「矢掛町から離れて」と答えた者に「地元以外で働きたい理由」を確認したところ、「自分の視野を広げたい」が27.3%で最も多く、次いで「地元には、自分にあう魅力のある会社、職種が少ない」が22.9%となっている。若者の働く会社、職種が少ないことが大きな問題となっていることがわかる。

※まちづくりアンケート（矢掛町）

①調査方法：配布によるアンケート ②対象者：矢掛中学校、小北中学校、矢掛高等学校の生徒

③客体数：817人 ④回収数：765人

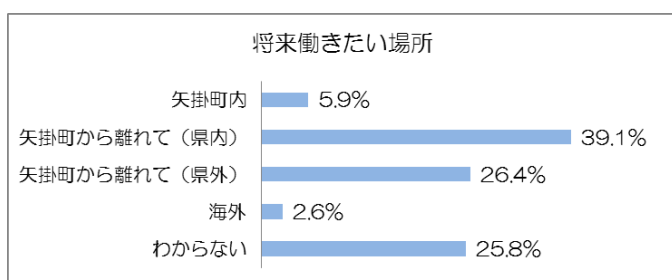


図20：【出典】矢掛町「まちづくりアンケート(2014.12)」

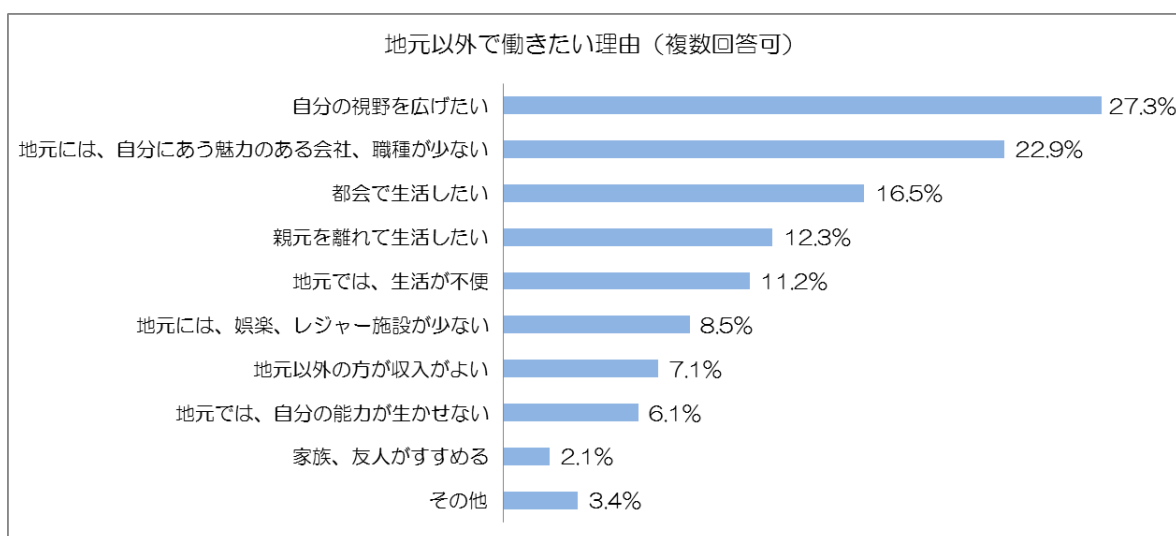


図21：【出典】矢掛町「まちづくりアンケート(2014.12)」

(2) 移住・定住に関する意識

(ア) 東京在住者の移住の意向

「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」によると、今後東京都から移住する予定または移住を検討したい（「今後1年」「今後5年をめぐり」「今後10年をめぐり」「具体的な時期は決まっていないが検討したい」の合計）と回答した人の割合は回答者全体の40.7%であった。年齢別に見ると、男性では50代が最もその割合が高く、次いで40代が高くなっている。一方、女性では10代・20代の割合が最も高く、次いで30代が高くなっている。男女とも10代・20代の割合が比較的高いことが特徴である。

※東京移住者の今後の移住に関する調査（内閣官房）

①調査方法：インターネットによる調査 ②対象者：東京都在住 18～69歳男女 1,200人

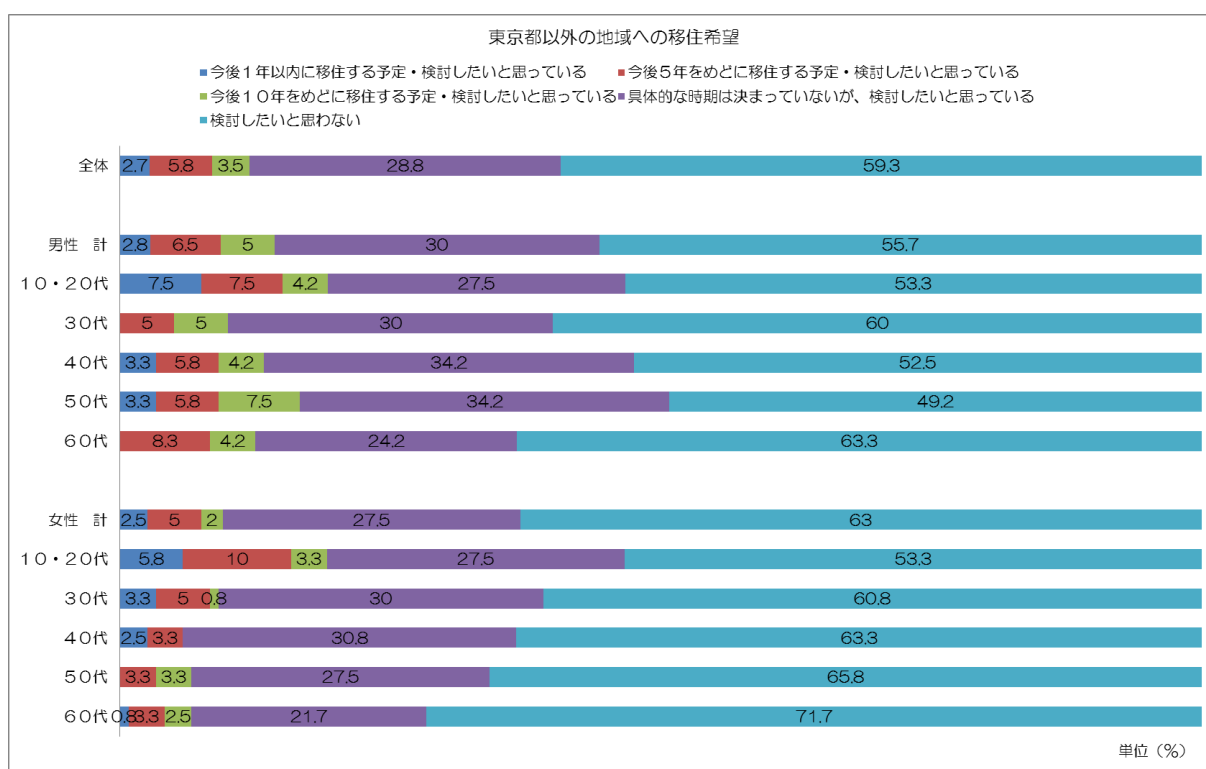


図22：【出典】内閣官房「東京移住者の今後の移住に関する調査(2014.8)」

(イ) 移住を検討する上でのポイント

「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」で、今後東京都から移住する予定または移住を検討したいと回答した人に対して、「移住を考える上で重視すること」を調査したところ、「生活コスト」「買い物の利便性」「交通の利便性」「仕事」「医療、福祉施設の充実」を挙げた人が多く、移住者を増加させるためには、このようなニーズに対応していくことが、必要となる。

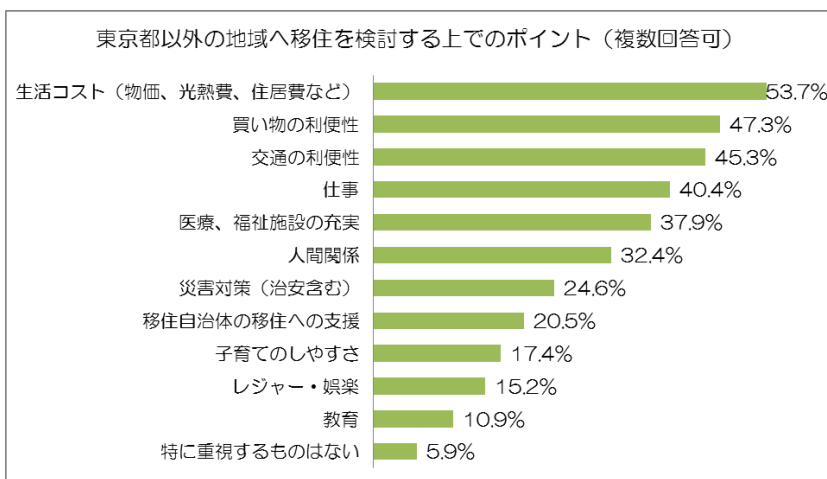


図 2 3 : 【出典】内閣官房「東京移住者の今後の移住に関する調査(2014.8)」

(ウ) 矢掛町が住みにくいと感ずる理由

本町が住みにくいと感ずる理由について、「交通の便が悪い」が43.8%で最も高くなっている。次いで「職場・仕事が少ない」が28.7%、「高齢化が進み人材不足である」が25.2%、「買い物の便が悪い」が24.5%となっている。

※住民意識調査（矢掛町）

①調査方法：郵送によるアンケート ②対象者：矢掛町在住の18歳以上の男女

③客体数：1,000人 ④回収数：457人

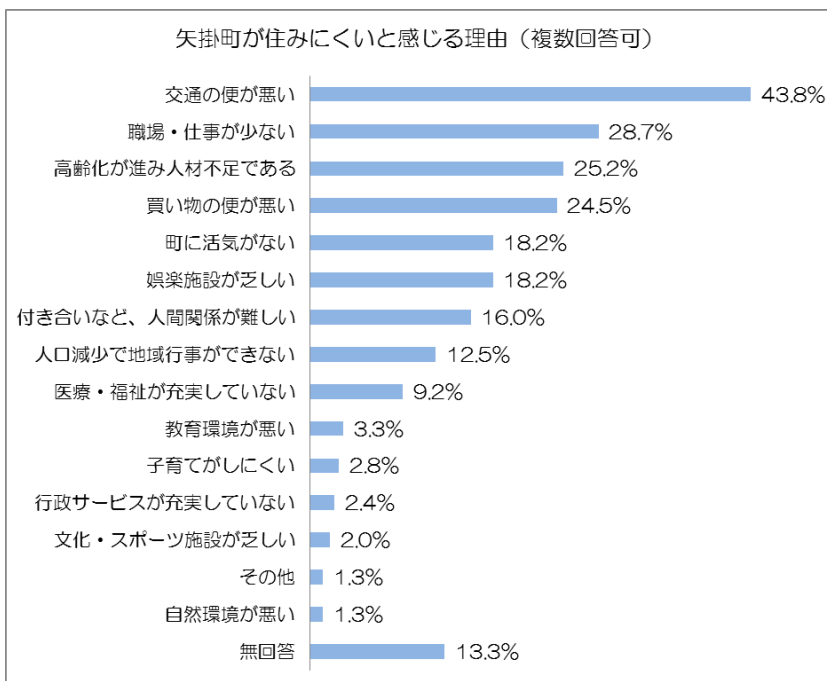
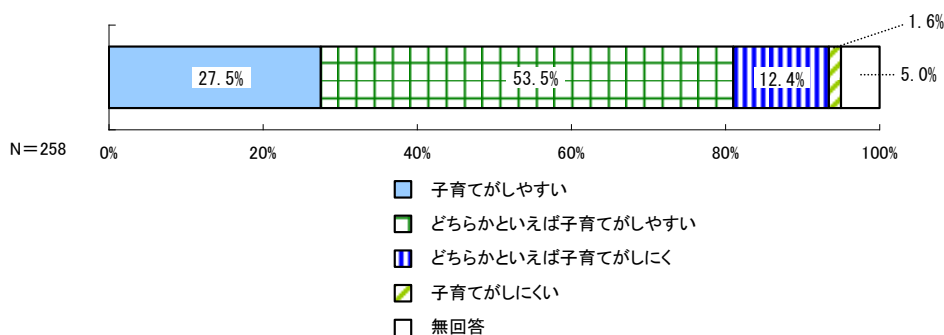


図 2 4 : 【出典】矢掛町「住民意識調査(2015.2)」

(3) 子育てに関する意識

(ア) 子育てのしやすさ

町内の小学校就学前の児童のいる世帯に対して実施した「矢掛町子ども子育てニーズ調査」によると、本町の子育てのしやすさの評価について、「どちらかといえば子育てがしやすい」と回答した人の割合が53.5%と最も高くなっている。次いで「子育てがしやすい」(27.5%)、「どちらかといえば子育てがしにくい」(12.4%)の順になっている。子どもの年齢別に見ると、「1・2歳」で「子育てがしやすい」と回答した人の割合が32.5%と最も高くなっている。地区別に見ると、「子育てがしやすい」と回答した人の割合が、「小田」で36.1%と最も高くなっている。次いで「川面」(34.4%)、「矢掛」(28.9%)の順になっている。



<子どもの年齢別・地区別>

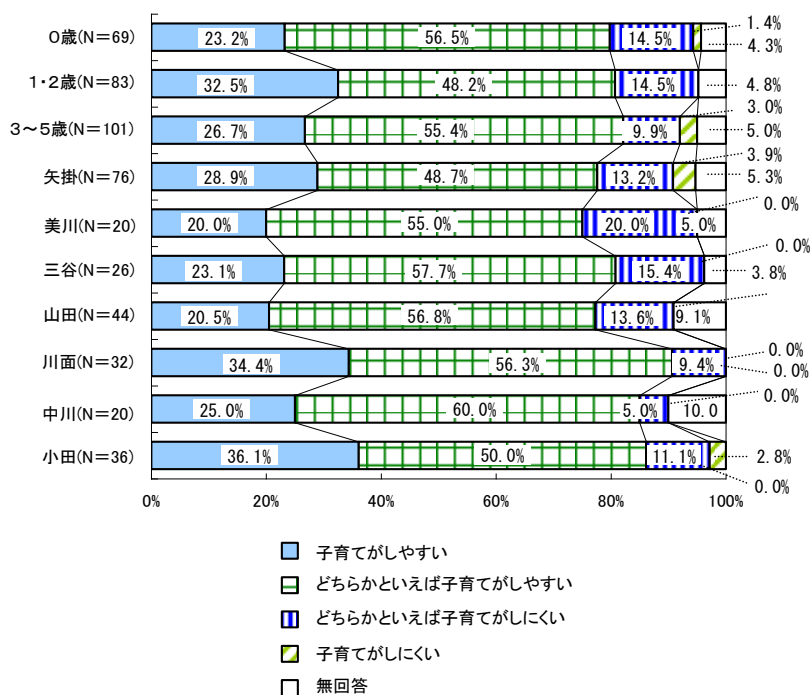
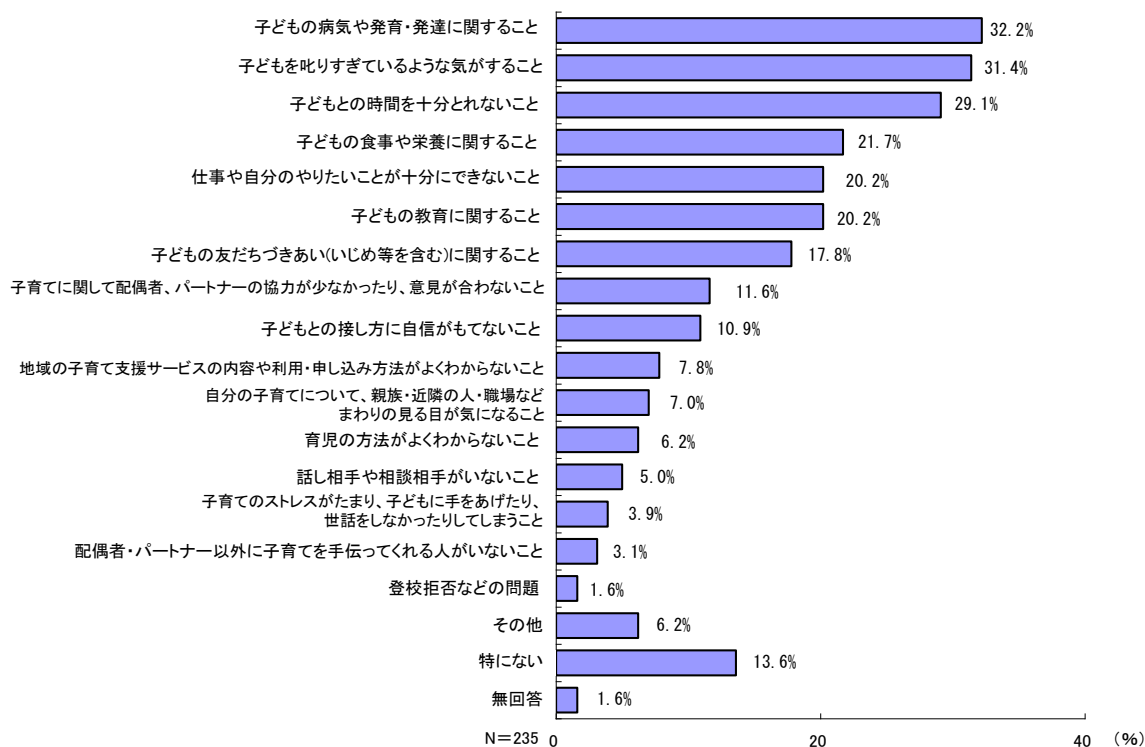


図 2 5 : 【出典】 矢掛町「矢掛町子ども子育てニーズ調査(2014.2)」

(イ) 子育てに関する悩み

「矢掛町子ども子育てニーズ調査」によると、子育てに関する悩みの内容について、「子どもの病気や発育・発達に関すること」と回答した人の割合が32.2%と最も高くなっている。次いで「子どもを叱りすぎているような気がする」（31.4%）、「子どもとの時間を十分とれないこと」（29.1%）の順になっている。



(複数回答可)

図26：【出典】矢掛町「矢掛町子ども子育てニーズ調査(2014.2)」

(ウ) 子育てに関する不安・負担

「矢掛町子ども子育てニーズ調査」によると、子育てに関する不安・負担度について、「なんとなく不安や負担を感じる」と回答した人の割合が40.3%と最も高くなっている。次いで「あまり不安や負担などは感じない」（34.9%）、「なんとも言えない」（10.5%）の順になっている。

子どもの年齢別に見ると、「なんとなく不安や負担を感じる」と回答した人の割合は「0歳」（34.8%）で最も低く、「3～5歳」（42.6%）で最も高くなっている。

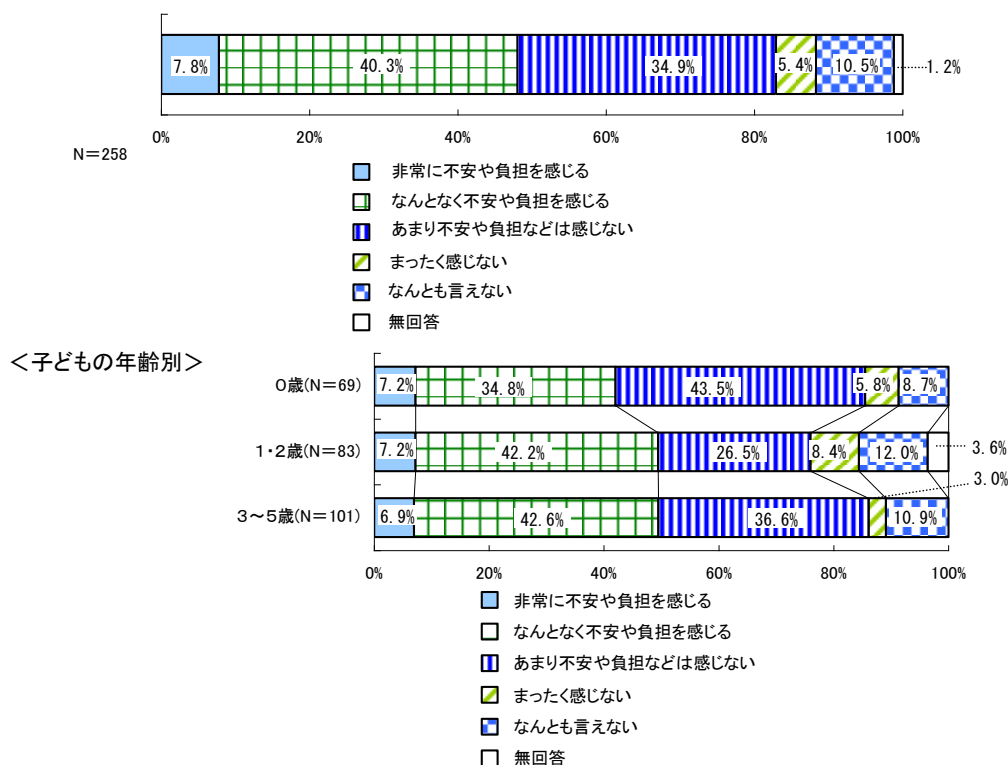


図 2.7 : 【出典】 矢掛町「矢掛町子ども子育てニーズ調査(2014.2)」

※矢掛町子ども子育てニーズ調査
 ①調査方法：郵送によるアンケート ②対象者：小学校就学前の児童のいる世帯
 ③客体数：435人 ④回収数：258人

2. 将来目指すべき方向

(1) 本町に雇用を創出し、若い世代が住み続けられる魅力ある町にする

アンケート結果から本町に雇用が少ないことが大きな課題となっていることがわかる。町内に安定した良質な雇用を創出することで、若い世代が町内で就職でき、定住人口の増加につなげることができる。

(2) 本町に人を呼び込むとともに、安全なまちをつくることで定住人口を増加させる

近年では、地方への移住希望が高まってきており、都市圏の若い世代の移住希望が多い。このような移住希望者に本町を選択してもらうために、移住希望者のニーズに応える環境をつくり、地震や台風などの災害リスクが低いという強みを活かした安全なまちづくりを行う。

(3) 結婚・出産・子育ての希望を実現する

本町に安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくり出し、人口の自然減に歯止めをかける。アンケート結果から本町は比較的子育てがしやすい環境であると言

えるが、一方で、子育てに関する悩みや不安は多く、これを少しでも解消していくことが出生率の向上につながる。

3. 人口の将来展望

合計特殊出生率が2060年まで徐々に上昇していくと仮定する。また人口移動については、本町の転入促進、転出抑制の施策により、すべての年齢階級において、純移動率が一定程度上昇したと仮定する。この仮定により本町の人口の長期的な見通しを試算すると、2060年に約10,000人程度の人口が確保されることになる。

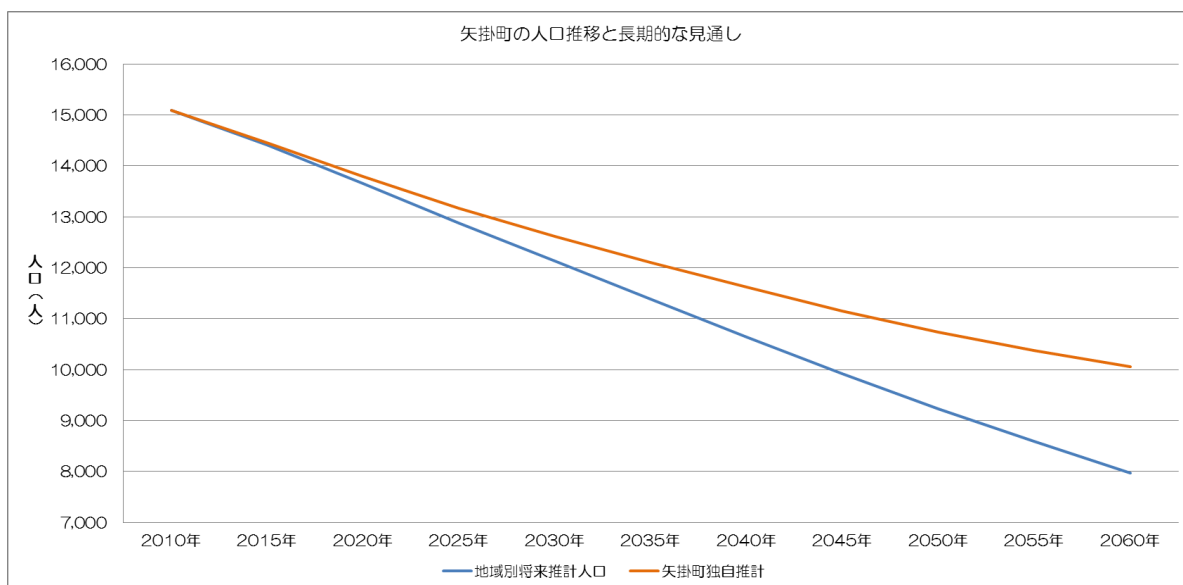


図28：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

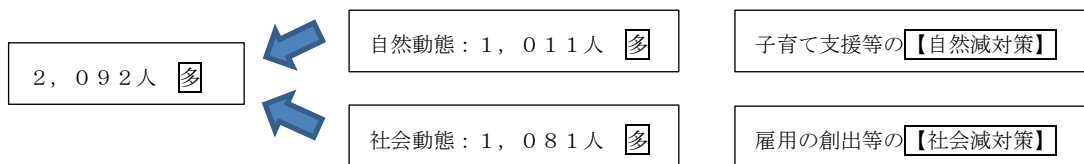
■地域別将来推計人口

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	15,091	14,406	13,651	12,876	12,130	11,385	10,644	9,915	9,227	8,588	7,969

■矢掛町独自推計

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	15,091	14,448	13,786	13,162	12,611	12,105	11,618	11,150	10,730	10,374	10,061

「地域別将来推計人口」と「矢掛町独自推計」を比較すると、2060年に総人口で、2,092人多くなっている。このうち1,011人が自然動態によるもので、1,081人が社会動態によるものである。矢掛町まち・ひと・しごと創生総合戦略に示す施策を実施することにより、人口の自然動態、社会動態の両方の視点から、人口減少の抑制を目指す。



<主な自然減対策>

- ・子育てと仕事の両立支援 … 児童館の建設、放課後児童クラブの開設 等
- ・子育てにかかる経済的負担の軽減 … 小児医療費の支援 等
- ・男女の出会いの場の提供 … カップリングイベント、セミナーの開催 等

<主な社会減対策>

- ・積極的な企業誘致の推進 … 雇用支援、本社機能の移転促進 等
- ・矢掛町観光の魅力発信 … 町並みガイドの育成、観光CM制作 等
- ・薬用作物の産地化の推進 … 薬用作物の栽培 等

■矢掛町独自推計の仮定値

【自然動態】

○合計特殊出生率の仮定値

	2010年	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年
合計特殊出生率	1.41	1.32	1.41	1.50	1.59	1.67	1.75	1.83	1.91	1.99	2.07

【社会動態】

○地域別将来推計人口で設定されている純移動率が、すべての年齢階級において一定程度上昇すると仮定

- ～2015年 … 純移動率1割上昇
- ～2020年 … 純移動率2割上昇
- ～2025年 … 純移動率3割上昇
- ～2030年 … 純移動率4割上昇
- 2031年以降… 純移動率5割上昇

矢掛町人口ビジョン

平成27年10月作成

岡山県矢掛町総務企画課

〒714-1297 岡山県小田郡矢掛町矢掛 3018 番地

TEL:0866-82-1010 FAX:0866-82-1454

URL : <http://www.town.yakage.okayama.jp/index.html>